



PDA 中四国公立高校 即興型英語ディベート交流大会 2020

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2020年10月25日(日) 9:00-13:00

会場：Zoomを用いたオンライン開催

参加者：香川県立高松高校、愛媛県立松山東高校、徳島市立高校高校、岡山朝日高等学校、徳島県立城ノ内高校

ジャッジ：PDA スタッフ、PDA 認定教育ジャッジ、京都大学、一橋大学

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

開会式では、香川県立高松高等学校の校長、出射隆文先生より、ご挨拶いただきました。「去年は3校(高松、徳島、松山東)で第一回四国交流大会、今年は、岡山朝日と城ノ内が加わり、5校での開催となり、中四国交流大会となりました。英語力だけでなく、様々な役立つ力の付く即興型英語ディベートの効果を、私自身つよく実感している。素晴らしい機会を大いに活用してもらいたい。」と激励のお言葉をいただきました。



出射校長先生によるご挨拶

次に、ルールの復習として POI (質疑応答) の練習を行いました。この POI はディベート中に相手に対し質疑応答を要求することができるルールです。お互いにわからなかった部分を解消したり、より議論を深めたりするためにとっても重要になります。朝早い時間ではありましたが、全員が元気よく POI のポーズを決めることができました。



全員で POI の練習



校内からの様子(松山東)

POIの練習を終えると、早速第1ラウンドの始まりです。第1ラウンドの論題は、「*Japan should legalize euthanasia.* (日本は、安楽死を合法化すべきである。)」でした。消極的安楽死と積極的安楽死の違いに言及したり、海外での事例を提示したり、普段から社会問題に関心を持っているのだと感じられるスピーチが見られました。また、患者自身だけでなく、医者の負担や家族の心情など、幅広い観点からお互いに熱い議論を交わしました。開会式で練習したPOIもたくさん見られ、議論を深めようとする姿勢が見られました。



ディベート後のエアークラッシュ ([左]松山東 vs 高松、[右]城ノ内 vs 高松)

第1ラウンドが終わるとすぐ第2ラウンドの始まりです。第2ラウンドの論題は、「*Single-sex schools are better than co-educational schools.* (共学より男子校または女子校のほうがよい。)」でした。どちらの方が勉強に集中できるか、学校生活をより楽しめるのか、将来必要になるコミュニケーションスキルや様々な経験を得られるのかなどについて、学校行事の例を出したり、身近なエピソードを例示したりしながら説明しました。ディベート後、ジャッジが勝敗を出すまでの時間に、今日の朝食は何を食べたか、最近あった学校行事や直前に迫った学校行事は何か、ハロウィーンは何をするか、部活動ではどのようなことをしているかなど、積極的に交流をし、会話を楽しみました。



準備時間の様子(城ノ内)

POI! (徳島市立)

そしてジャッジを務めたスタッフがもう一度この人のディベートを見たいとエキシビションディベーターに推薦した6名によるエキシビションディベートが始まりました。論題は「*“Go To travel” campaign should be cancelled. (Go To トラベルキャンペーンは中止されるべきだ。)*」でした。感染症予防が十分になされるのかどうか、旅行に行くことができないストレスやうつ病の人などにとってのリフレッシュの機会としての重要性、航空業など旅行の影響を受ける産業やそれによる経済効果など様々な観点から議論がなされました。

オーディエンスの生徒も勝敗を考えながらディベートを観戦し、ディベートが終わると挙手で Government が勝ったか Opposition が勝ったか投票が行われました。生徒ジャッジとメインジャッジの投票の結果、今回のエキシビションディベートは Government チームの勝ちとなりました。



堂々とスピーチ（[左]岡山朝日高校、[右]高松高校）



POI！（城ノ内高校）



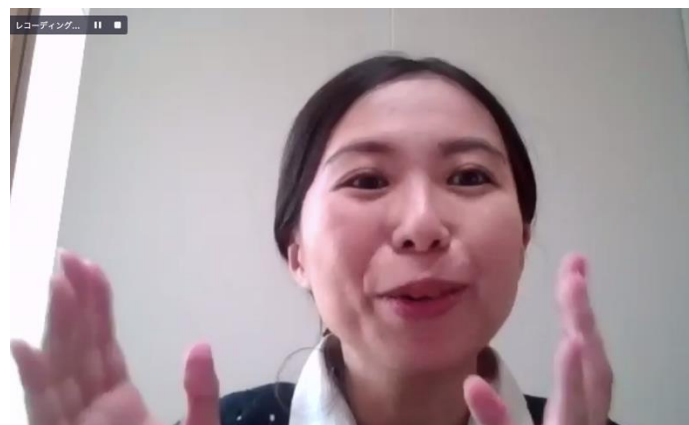
聴衆を見てスピーチ（松山東高校）

閉会式では、香川県立高松高等学校の校長、出射隆文先生より、「昨年から参加校がどんどん増えています。リモートという手法を使いながら、いろいろな学校の生徒とディベートで交流していけたらいいと思います。」と、今日の交流大会だけでなくこれからの取り組みについてもお言葉をいただきました。



出射校長先生によるお言葉

そして、PDA 代表理事の中川智皓（大阪府立大学工学研究科准教授）より、「現在の大学の講義もリモートが中心です。みなさんが進学する頃には今よりもオンラインという手法が活用されていることでしょう。大学入学後、違うキャンパスの人と交流することも増えると思います。ぜひこれからもオンラインで深い議論をしたり意思疎通をする工夫をしたり頑張ってみてください。」と交流大会に参加した生徒への激励の言葉が送られました。



PDA 代表理事中川による激励の言葉

【表彰】

〈エキシビジョンディベータ賞〉

- PM [redacted] さん (岡山朝日高校)
- LO [redacted] さん (高松高校)
- MG [redacted] さん (高松高校)
- MO [redacted] さん (高松高校)
- LOR [redacted] さん (松山東高校)
- PMR [redacted] さん (城ノ内高校)



エキシビジョンディベータ

〈チーム賞〉

- 1位 チーム G 城ノ内高校
- 2位 チーム A 高松高校
- 3位 チーム C 高松高校
- 4位 チーム H 城ノ内高校
- 5位 チーム E 徳島市立高校
- 6位 チーム F 岡山朝日高校



1位 城ノ内高校



2位 高松高校



3位 高松高校

〈ベストディベーター賞〉

- [redacted] さん (高松高校)
- [redacted] さん (城ノ内高校)
- [redacted] さん (城ノ内高校)
- [redacted] さん (城ノ内高校)
- [redacted] さん (岡山朝日高校)
- [redacted] さん (徳島市立高校)
- [redacted] さん (徳島市立高校)
- [redacted] さん (松山東高校)
- [redacted] さん (松山東高校)
- [redacted] さん (高松高校)
- [redacted] さん (高松高校)
- [redacted] さん (高松高校)



ベストディベーター賞

〈POI 賞〉

- [redacted] さん (高松高校)
- [redacted] さん (城ノ内高校)
- [redacted] さん (岡山朝日高校)
- [redacted] さん (徳島市立高校)
- [redacted] さん (松山東高校)
- [redacted] さん (高松高校)
- [redacted] さん (高松高校)
- [redacted] さん (高松高校)



POI のポーズで表彰

参加者の声（アンケートより抜粋）

生徒の声

- ・自分よりレベルの高い人がたくさん居て良い刺激になった。（徳島市立高校）
- ・コロナ禍の中、オンラインという形でディベートをすることができてよかったと思う。（城ノ内高校）
- ・様々な観点を知れて、また、ディベートの上手な子は何に気をつけているか、ディベートをする上で気をつけることは何かに気づけた。発音が上手な子、意見がハッキリしていてわかりやすい子などなどとお話してもっとディベート力を向上させたいと思った。（城ノ内高校）
- ・安楽死や共学など普段議論しないような内容を話し合うことが出来、さらに英語で議論出来た。（徳島市立高校）
- ・これからたくさん練習してうまくなりたいです。（高松高校）
- ・1回目のディベートでは上手くいかないこともあったが、2回目ではそこを改善して取り組むことができた。それでも、まだまだ改善点はいっぱい見つかったので、少しずつ練習して経験を積みたい。（松山東高校）
- ・相手の言っていることが理解できて反論できた時の達成感があった。（高松高校）
- ・今回、交流大会を開いて下さりありがとうございました。ディベートを他校とできるのはコロナ禍の中で本当に貴重でした。ジャッジコメントでも的確なアドバイスもいただいて、今後の練習に活かしていきたいです。（城ノ内高校）
- ・社会現象に興味をもつこと、自分の意見をもつこと、そして、逆の立場の意見も十分に説明できるレベルで理解しておくことがとても重要だと思った。また、ディベートのやり方として、使う言葉、掘り下げる部分、構成など、によって、内容をいかに伝えられるかが重要になってくるのが本当に面白かった。（岡山朝日高校）
- ・色んな高校と交流できて楽しかった。（徳島市立高校）
- ・自分の意見を英語で表現する機会を与えられたことが嬉しく、またもっと英語力をつけたと思った点で良い経験になったと思います。（高松高校）
- ・英語で自分の意見を伝えることはとても難しかったです、それ故にクリアな主張ができた時に達成感を感じました。（岡山朝日高校）
- ・英語で自分の意見を伝えることはとても難しかったです、それ故にクリアな主張ができた時に達成感を感じました。テーマが全て社会的、かつ私たちの生活にも関わってくることで、こうして改めてそれらについて考えることは、私達自身の社会への参画の一端になると共に、今後国際的に活躍することが求められる社会において必要な「自分の意見を持つ」ために貴重な経験でした。（岡山朝日高校）
- ・たくさんの良い刺激を得られた。（松山東高校）

教員の声

・指導する際のステップみたいなものを学ぶことができました。機器の不調などオンラインの不便さもありましたが、オンラインだからこそ昨年よりも出場校も増えて実施できてよかったと思います。

・生徒たちがイキイキと参加していた。

・高校生の頑張り、ジャッジの方の素晴らしいフィードバックを見られて大変勉強になりました。

・ジャッジの先生からは、次につながる効果的なアドバイスをいただき、非常に感謝しています。最近、テスト等の行事があって授業中にディベートができてないことで、やはり生徒の発話がなかなか出ない等、日々の積み重ね、授業の大切さをこの交流会で実感しました。生徒たちは、楽しく交流できており本当に参加させていただいて良かったです。